

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関：かごしま授業維新会 連携機関：鹿児島県教育委員会
	セミナー名：【NITS カフェ in KAGOSHIMA】 主タイトル：授業力向上オンラインセミナー 副タイトル：これからの学習評価を考える
	開催日時：令和3年2月23日 13時30分～15時45分 開催場所：ZOOM 開催（拠点地：鹿児島市立伊敷中学校） 参加人数と参加者の属性：教育委員会関係8人、大学院関係7人、一般教諭104人

## テーマ：

今回の学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善が求められている。「主体的・対話的で深い学び」とは、子供の学びの姿を教員側が適正に評価し、その評価によって手立てを行う一連の流れと捉えることができる。

そこで、本 NITS カフェにおいては、様々なキャリアステージにある教員と指導主事・学生が実践事例や講義を基に「学習評価」に関して共に学ぶことを通して、参加者が「学習評価」のイメージを持てることをテーマとしたものである。

## 内容：

本懇談会は2部構成で実施した。第1部は、熊本大学教育学部附属小学校、鹿児島大学教育学部附属中学校、鹿児島市立伊敷中学校の実践発表と、それに関する質疑応答を行った。第2部は、京都大学 准教授 石井英真 氏 による講演とそれに関する質疑応答を行った。

### 第1部

#### ○熊本大学教育学部附属小学校の発表内容

粘り強い児童の育成を目指して、授業のゴールイメージを明確にもち、評価を充実させることで授業改善を行った取組を紹介した。特に社会科では、SDGsをテーマに単元をつくりあげ、指導を行うこととした。授業が充実するためには、目的意識や問題解決への見通しを持つことが重要である。そこで、「SDGs宣言をつくろう」という設定のもと、児童が学びの道筋をつくれる授業設計を行った。また、個人が興味をもった課題を追究しやすいように、一人一人の「問い」を設定するようにした。これらの手立てより醸成された学びに向かう力を、主に振り返りの記述とパフォーマンステストを用いて評価するようにした。評価から得られた情報を指導に生かすことで、粘り強さを有した児童の育成を目指した。

#### ○鹿児島大学教育学部附属中学校

国立教育政策研究所指定研究校（美術科）として、4年間行った「美術科の学習を通して身に付く資質・能力を明確にして生徒と共有し、成果を学習の過程とともに評価しつつ指導の改善につなげる取組について」を発表した。

年間指導計画を作成する場合、題材で育成される資質・能力を系統だてて配列することは重要である。そこで美術科では、1年間で育成した資質・能力から題材で育成したい資質・能力を作成し、さらに本時の学習目標を作成するようにした。生徒には振り返りシートを配布し、毎時間振り返りを書かせるようにした。評価については、その振り返りの記述等から資質・能力の変化を見取り、手立ての見直しを定期的に行うようにした。

#### ○鹿児島市立伊敷中学校

本年度「評価」の在り方について研究を行っており、その研究の概要が発表された。

今回の評価の観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点である。そこで、伊敷中学校ではそれぞれの教科において、この観点を意識した評価を行うようにしている。例えば「知識・技能」の評価については、社会科が行っているワークシートを活用した評価方法が紹介された。また、「思考・判断・表現」については、技術・家庭科が行っている一枚ポートフォリオの例が紹介された。他の2校と同様、評価を指導に生かすことで資質・能力の向上を目指している。

三校の取組に対する質疑応答の場も設けられた。例えば、主体的に学習に取り組む態度の評価方法等、現在の教職員が困っている質問がなされ、充実した会となった。

## 第2部

京都大学准教授 石井英真 准教授による講義と質疑応答がなされた。石井准教授からは、「見取り」と「評価」と「評定」の関係等、教師にとって新たな視点も得られる内容の濃い講義をいただくことができた。後半に設けられた質疑応答の場面でも、評価の方法に関する質問が多くの参加者からなされた。

### 成果：

本懇談会のアンケートより

#### 第1部

- ・中学校における評価の取組について、大きな参考となりました。ありがとうございました。
- ・学習評価については、発表された方々と同じ考えで、そのまま指導改善につなげていこうと自信を持つことができました。これから子どもが自らの学びを自覚しながら自己調整に繋げる学習評価と指導改善の評価の両面についてもっと考えていこうと思います。
- ・先進校のお取組みが大変参考になりました。具体的な事例に落とし込んで考える契機となっております。ありがとうございました。
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）を踏まえ、3観点の評価方法の具体を提示されていたこと、本校でも、評価規準の策定するにあたって、参考にしたいと思います。

#### 第2部

- ・各校の実践と石井英直先生の講演が結びついたもので分かりやすかった。
- ・アセスメント、評価、評定の違いを知ること、評価に追われない指導ができるなあと思いました。石井先生の貴重なお話でした。
- ・評価や見取りについて、とても関心があったので、とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・石井先生の講話では、基本的な評価の意義の確認ができたりとても勉強になりました。ありがとうございました。

※アンケートの結果から、三校の取組や石井准教授の講義、もしくはそれに関する質疑応答を行うことで、評価の手法やその考え方について理解が深まったと考えられる。

### アイデアや工夫したこと：

- ・三校の取組内容の発表後、その内容に対して質疑応答で懇談する時間を設けた。
- ・質問の意図が明確に伝わるように、テキスト機能は使用せず、音声のみの質疑応答を行った。

#### <写真・図など>



#### 【写真1】

三校の研究内容の発表は、学習評価に焦点が当てられたものであった。三校とも形成的評価の実践ではあったが、取組に特色があり見応えがあった。



#### 【写真2】

実践発表後の質疑応答では、発表者の回答に対してさらに質問が行われる場面があった。質疑応答の時間をもつことで参加者の理解が深まった。



#### 【写真3】

京都大学 准教授 石井英真氏の講話は、学習評価を教職員とは違った視点で解説されたものであった。質疑もあり、充実した時間であった。